

2/19

盛会裡に冬季研究例会

一年間の締めくくりである冬季研究例会。

「富大生から見た黒部川扇状地」と題して発表がありました。

黒部川扇状地の歴史、文化、食について、各自がテーマを決め、調査研究してきた成果でした。コロナ禍で、調査の困難さを感じながらも積極的に地域の良さを探し、地域で地道に頑張っている人を発掘して聞き取りを行うなど、学生らしいひたむきさが参加者の心をつかんでいました。日ごろ見聞きしていた事柄の歴史や伝統を守ろうとする人々の努力、工夫を深く知ることができ、改めてそれらの価値に気付くことができ、参加者からは好評でした。

<部会発表>

研究所の6つの部会の活動報告。「地域変容部会」はドローン撮影の上映。「水部会」は扇状地右岸の水の塩水化測定の報告。「動植物部会」は墓ノ木自然公園の野鳥の観察報告。「郷土史部会」は耳浦文庫の目録作成。「巡検部会」は黒部川の変遷について報告しました。

・大畑さん:下立地区の民俗行事

-6月21日の御影様迎えと愛本姫社祭り-

・小川さん:宇奈月町の伝統食であるトチの実について -内山地区に焦点を当てて-

・笹川さん:入善町における「食」通じた地域おこし



富山大学都市デザイン学部地球システム科学科教授 渡邊了氏から「黒部川扇状地の活断層」についてご講演いただきました。NHK「プラタモリ」の糸魚川・静岡構造線の番組や「日本海溝・千島海溝地震被害想定」等の記事、ニュースは記憶に新しいと思います。「黒部川扇状地は地震に強い」と思っている方もいると思いますが、本当に黒部川（扇状地）辺りでは、地震波が少なくなるようです。砂礫のしまり具合とおっしゃいましたが、はっきりした理由は、解明されていないそうです。

冬季研究例会から

一感染対策はしっかり！これからもー

会場

左右前後の距離の確保（1m以上はしっかり空ける）
さらに、出入り口は開放したまま。換気扇とダブル！
だからちょっと寒いよ。



受け付け
指手消毒とマスクの確認！さらに
2枚目のマスクでの配布加。



フィールドミュージアム事業 扇状地カフェ 報告 12/3(金)、12/23(木)

「黒部川扇状地を舞台とした小さな歴史物語」

講師：松島吉信氏

講師自ら、松尾芭蕉が歩いた旧北陸道の一部を追体験して臨んだカフェ。一日平均40kmほど歩いた芭蕉や当時の人々の健脚に思いを馳せながらのお話でした。また、中田栄太郎氏の撮影記録「昭和初期の富山県の人々の暮らし」の画像を見ました。当時の風景から人々の暮らしがよく分かりました。

12/3 扇状地カフェIN サンウエル



「外国調査から黒部川扇状地を考える」

講師：水嶋所長

中央アジアのパキスタン北部のキルギス辺りの調査から見てきた日本、黒部川扇状地の人々の暮らしを考えました。標高の高いこの地では、年間降雨量が少なく、氷河の雪解け水を利用し、持続可能な農業を営んでいる。昔ながらの伝統食を食べる人々の平均寿命は長いそうです。便利で豊かな生活。自分の生き方を考えさせられました。

書籍の紹介

全世界で取り組む「SDGs」。なぜ今、これが大事なのか、世界と日本、富山県の身近な問題も紹介されています。



1冊
2700円